

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 北九州市 】

1 実践テーマ	【 II、III 】
2 実施対象者	北九州市立古前小学校 全学年、86名、4～6学年、45名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (道徳、総合的な学習)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○ グローバルマナーとおもてなしの心を学び、自己を確立しつつ、他者を受容して臆せず積極的に海外からのお客様をお迎えしようとする心情を養う。</p> <p>○ 視覚障害者の方の苦勞や工夫を知ったり、ブラインドサッカーの選手の話の聞いたりし、アイマスク等の使用体験やゲームを行ったりする活動を通して、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。</p>
5 取組内容	<p>(1) グローバルマナーとおもてなしの心</p> <p>10月9日(火)、筑波大学客員教授で元JAL 客室乗務員の江上いずみ様より、「グローバルマナーとおもてなしの心」について講話をしていただいた。おもてなしの心を表すときに大切な表情や態度、身だしなみ、言葉遣い、挨拶、また、言葉かけの大切さとコミュニケーション能力を高める方法などについて教わることができた。</p> <p>児童の感想は、次の通りである。</p> <p><下学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の目を見て笑顔で挨拶をすることが大切。 ・あくしゅの仕方を知りました。 ・障害者の方へも思いをきちんと伝えることが大事だと分かりました。 <p><上学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・先言後礼の挨拶について学んだ。 ・アイコンタクトを知りました。 ・目→物→目の順番で物を手渡していることが分かりました。 ・おもてなしの心をこれからの生活に役立てていきたい。



(2) 授業実践4年

単元名「ともに生きるって、どんなこと」総合的な学習の時間
視覚障害者の方が生活する上で、どのような問題があるかを調べるため、目の不自由な方の生活体験を行った。

①ボタン付け

目かくしをして、ボタンを付けて、どんなことに気付いたのかを出し合った。

- ・子どもたちは、付ける位置がよく分からなかった。
- ・エプロンを着る向きが分からなかった。
- ・回りの人に声をかけて欲しかった。
- ・声をかけ合うと楽しかった。
- ・などの感想をもっていた。



②歩行体験

- ・目の不自由な人がこんなにもたいへんな思いをしていると分かったから、今度から声かけをしたらいいと分かりました。
- ・声をかけ、相手に分かりやすく伝えようと、相手もうれしいと思う。などの感想がでた。

(3) ブラインドサッカー体験学習

11月29日(木)、ブラインドサッカーの元日本代表選手による山口選手より、ブラインドサッカーを始めた理由や普段の生活の様子などを聞いた。その後の準備運動では、アイマスクで目をかくした状態で、ペアの相手が声をかけて動き方を教えた。目をかくして全く見えないまま体を動かすことが難しい様子だった。



次に、歩行体験をした。先方にいる友達が呼ぶ声を頼りに進むことは、大変難しく、違う方向へと歩いていく児童が多かった。

また、ボールを蹴ったりドリブルしたりしながら目が見えないボールをコントロールすることの難しさを体感することができた。

児童の感想は、次の通りである。

- ・音は聞こえてきたけど、どこにあるか分からなかった。目が見えない人はこんなつらい思いをしているんだなと思いました。
- ・どこにいるかが分からないので、とてもこわかったです。
- ・音が鳴っている方に動くことはとても難しかった。
- ・目の見える人と見えない人がいっしょになってゲームができるよさを学びました。
- ・手をたたいたりして、今どこにいるかを教えてあげることが大事だと分かりました。




講話や体験を通して、目の不自由な人たちの思いや頑張っている様子、スポーツをするやりがいなどに気付いた。また、仲間とともに活動することで、より楽しく活動できることや生活がより豊かになるということが分かった。



(4) 誰もが気持ちよく生きるために

体験後に、学級で友達と意見交換する中で、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて考えた。そして、これから実践していこうとすることを確かめ合った。学習後の児童の感想は、次のとおりである。

- ・目が不自由な人がいたら、今いる場所の位置を教えてやりたい。声をかけてあげたい。
- ・目の不自由な人のために、少しでも楽に生活できるようにしてあげたい。
- ・あふない事や困っていたときに、声をかけてやりたい。
- ・ブラインドサッカーは、目が見えなくてもできるスポーツでした。サッカーボールに鈴が入っていて音で分かるようになっていました。体験してとても楽しかったです。
- ・一人で食事の用意やせんたくをぜんぶするのは大変だなと思いました。
- ・困っていたら勇気を出して教えてやることが大事だと分かりました。

	<p>講話や体験を通して、目の不自由な人たちの思いや頑張っている様子、スポーツをするやりがいなどに気付いた。また、仲間とともに活動することで、より楽しく活動できることや生活がより豊かになるということが分かった。</p>  <p>(4) 誰もが気持ちよく生きるために</p> <p>体験後に、学級で友達と意見交換する中で、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて考えた。そして、これから実践していこうとすることを確かめ合った。学習後の児童の感想は、次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目が不自由な人がいたら、今いる場所の位置を教えてやりたい。声をかけてあげたい。 ・目の不自由な人のために、少しでも楽に生活できるようにしてあげたい。 ・あふない事や困っていたときに、声をかけてやりたい。 ・ブラインドサッカーは、目が見えなくてもできるスポーツでした。サッカーボールに鈴が入っていて音で分かるようになっていました。体験してとても楽しかったです。 ・一人で食事の用意やせんたくをぜんぶするのは大変だなと思いました。 ・困っていたら勇気を出して教えてやることが大事だと分かりました。
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「グローバルマナーとおもてなしの心」について学んだことにより、日常生活においても、目を見て挨拶したりお辞儀をしたりする児童が増えた。また、相手に対して優しく接したり、友達の気持ちをよく聞いてあげたりする思いやりのある行動が増えている。 ○ 体験を通して感じたことをまとめたり、話し合ったりして、障害者の気持ちを考えたことにより、障害者の立場を考えた言葉かけや行動をしようとする気持ちが芽生え、実践しようとする児童が増加した。言葉かけの大切さや人とのコミュニケーションをどうやって取ればよいか分かり、自信をもった児童が多かった。
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全児童に体験させるために、講座の対象学年を、下学年と上学年の二つに分けた。児童の実態に合わせて講話をしていただいたので、より理解ができた。 ○ ブラインドサッカーの体験活動が充実するよう、学年を4～6年と絞り込み、2時間の授業を実施した。 ○ ブラインドサッカーで使用するアイマスクやゴールを持参していただいたので助かった。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を持続させていくこと。 ○ 多くのスポーツに触れさせたい。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特に予定はないが、機会があれば実施したい。